

電動の模型作りに挑戦

田辺工業高 児童招き工作教室



高校生に教わりながら燃料電池カーの工作キットを作る児童（田辺市あけぼので）

田辺市あけぼの、田辺工業高校はこのほど、同市田辺東部小学校児童を招いた「ものづくり工作教室」を同高校で開いた。夏休み中の児童たちが燃料電池を利用した工作をし、高校生と交流しながら科学に関心を深めた。

近隣の小学生と高校生が一緒に作業しながら、児童に身近な科学技術に触れてもらおうと企画した。対象の5、6年生から希望した10人が参加した。

工作したのは電動の自動車模型。マグネシウムと炭に塩水を垂らして電気を発生させモーターを動かすキットを利用した。機械科の教員が発電について講話した。電気が流れる仕

組みや、燃料電池は酸素と水素を反応させて電気と水を得る仕組みを利用していると説明。自動車メーカーで技術開発が進んでいる燃料電池の応用例も挙げた。

高校の電気電子科、機械科、情報システム科の生徒が補助員となり、児童1人ずつに付き添った。自動車模型部品の

組み立てを高校生に教わりながら、児童たちが工作を楽しんだ。

田辺東部小6年の中松えりさんは「水と電気から酸素と水素ができることを、反対に利用している燃料電池の仕組みに驚いた。科学の勉強は面白いと思った」と話した。